

「関東研修」に期待すること

学校長 駒田 勝

本年度の本校スローガンは、『知を創造する人づくり』です。本校では、このスローガンを具現化するために、多様な生徒研修を計画しており、この度の「関東研修」もそのうちの1つです。関東一円の研究施設や企業を訪問し、世界をリードする最先端の知識や技術等々に触れることで、皆さんが広く世界に目を向けるきっかけとなれば幸いです。また、本年度もこうして「関東研修」を実施できますのも、趣旨をご理解いただいた関係機関の皆さま方のご協力あってのことと、深く感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、この「関東研修」はSSH事業の一環として実施するものであり、例年、参加者の意識は高く、入学前から本研修への参加を楽しみにしていたという生徒も少なくない聞いています。本年度は79回生21名が参加します。日本を代表する最先端の研究施設や企業での学びは、皆さんの若い豊かな感受性を大いに刺激し、感動を与え、好奇心を育む貴重な機会となり得るものと考えています。実際、日常生活において、このような学びの機会はそうそう多くないはずで、それぞれの訪問先では、自らが意識して関わりをもち、積極的に質問するなど、主体的な学びの姿勢をもって臨んでいただきたいと思えます。

なお、本年度は従来の研修内容を一部見直し、「筑波実験植物園」を新たに追加しました。国内の絶滅危惧種の保全活動をしている保全生態学の専門家の先生から生物多様性の保全活動等についての学びを得る予定にしていますので、楽しみにしておいてください。

ところで、生徒の皆さんは「**Sleep with problem.**」という言葉を知っていますか。数学者の広中平祐の著書「生きること学ぶこと」で出会った言葉です。その意味は、難解な問題と寝食を共にし、寝ても覚めてもその問題を考え続けること。つまりは、時間をかけてじっくりと考えることが大切、ということでしょうか。広中先生は、この著書の中で「ものを考える態度には、短時間で考える即効型と、長時間思考型がある」と述べ、長考型思考の訓練ができていない人は、ものを深く考えることができないため「知識の深さ」が得られないと述べています。また、パスカルの「人間は考える葦である」という言葉を引用し、ものを考えない人間はいないとしながらも、ここ一番という時に、より深く考える力、素養を身につけておくことは、学生時代に是非やっておくべきことだとも語っています。将来、研究者や技術者を目指す皆さんには、是非この言葉を大切にしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本研修の計画・実施にあたりご尽力いただいた関係教職員の方々に感謝申し上げますと共に、生徒の皆さんにとっては、将来につながる新たな知見を得る充実した実り多い研修となりますことを期待しています。